

下道恵子議員



● 誘客拠点整備とまちづくりについて
● 「東山いこいの森」の施設整備について

そのほかの質問
・高齢者の移動手段について
・男性の育児休業取得について
・勝山市定住化促進事業について

一般質問

問 「道の駅」予定地が、中部縦貫自動車道勝山インター線上の荒土町松ヶ崎に架かる橋のそばと発表され、多くの市民の方々の要望に対する方向性がみえてきて喜んでいいます。県は「第2恐竜博物館」の建設を検討しているがその効果と影響を考えた「道の駅」との関連性を伺う。また、まちなか観光戦略の拠点となる「旧料亭花月楼」再生整備は、商工会議所が「主」で、(仮称)観光まちづくり会社を運営していくとある。新たな視点のアドバタイザーが必要であると思うが市の考えを伺う。

答 第2恐竜博物館は、県立恐竜博物館の持つ世界屈指のミュージアムとしての価値や魅力を補完する施設として、長尾山総合公園内に建設されることを考え、役割分担や負担割合をどうしていくのか、構想段階からの協議への参画を求めている。「道の駅」は、恐竜だけではなく、九頭竜川の鮎などの川魚や恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク、そして白山山系や九頭竜川水系の持つ豊かな自然環境を生かしたアウトドアを楽しむ拠点、着地型観光の案内機能を持ったゲートウェイとして考える。(仮称)観光まちづくり会社におけるアドバタイザーあるいはプロデューサーなど勝山市の観光戦略全体をコーディネートする人材は必要であると考える。

● 企業誘致及び地元企業支援策について
● 九頭竜川の景観について

近藤栄紀議員



そのほかの質問
・スポーツ振興にあたり学校の部活動について
・旧木下家住宅の利活用とその周辺整備について

一般質問

問 人口減少問題克服に向けた地方創生総合戦略を実践する中で、若者の雇用の受け入れとして企業誘致及び地元企業の育成が不可欠です。中部縦貫自動車道整備促進により、中京、関東圏との産業、企業ネットワークの広域化といったチャンスの中で、他自治体との競争に打ち勝つための方策を問う。また、当市の企業誘致制度において他自治体と比較してどのような優位性があるか。

答 ジオパークの考え方に沿うような、意欲ある企業へのアプローチ、市民がアウトドアレジャーや、用品のショッピングなどを楽しめるよう、さらには交流人口を増やして定住につなげられるよう関連施設の充実や専門店等の誘致を検討する。また、高速交通体系が進展する中、活性化が見込まれる物流関連産業のニーズや先端的な繊維関連産業など、地元企業の要望を、迅速に政策に反映していく。

問 市の中心を雄大に流れる九頭竜川。現状は土砂が堆積し多くの樹木が自生し、対岸も川の流れてもほとんど見えない状況となっており、更にイノシシなどの動物の住かとなり、川に沿って活動範囲を広げ農作物の被害が増大している。樹木の伐採、砂礫河原の再生など抜本的な対策は出来ないか。平成30年福井国体の向け県に求めているいくのチャンスをどう活用するの考えを伺う。

答 福井県は平成21年度から昨年度まで、北郷町坂東島、森川から西妙金山など15カ所、約21.8haを計画的に伐木している。今年度も鹿合町保田、遅羽町比島の約0.7haの雑木を伐木する予定と聞いているが、まだまだ不十分で今後も引き続き強く要望していく。また、九頭竜川水系の中流部ブロックに位置づけられている勝山市では、小舟渡工区及び松ヶ崎工区にて河道拡幅や河床掘削等の工事を行う計画があり、その際には自然環境に配慮し、砂礫河原が再生されるよう要望していく。